

KANUMA NO MEISHO

鹿沼の名匠

澤田了司

さわだ

りょうじ



澤田 了司

日光東照宮では、十八年間にわたる「平成の大修理」の真っ最中。その中で彩色部門を率い、江戸時代の美の粋を未来に引き継ぐのが、澤田了司さんの仕事です。

「文化財はその維持が基本で、変えることは許されません。当時のデザイン、技法を忠実に再現します」と、澤田さんは話します。「例えば、東照宮の唐草模様の葉先は、必ず左右どちらかに曲がっています。勝手にまっすぐにはしてはいけません」寸分の違いも許さない、厳しい職人の顔がそこにありました。

材料や道具の一部にも、当時使われたものと同じものを使います。塗料は、鋳物から作られる岩絵の具と膠を練ったもの。型紙は柿渋を染み込ませた和紙です。

「現在は入手が難しく、高価なものも多い。天然物を使っている

のは東照宮だけかもしれません。しかし、当時の色彩を再現するにはどうしても必要なのです」

鹿沼の彫刻屋台に関わるようになったのは、地元・戸張町からの彩色の依頼がきっかけ。以来、市内外の彫刻屋台や神社などの彩色を手掛けてきました。

「東照宮とはまた違った技法や材料が使われていて、色彩を再現するためにそれを調べるのが大変でした」と当時を振り返ります。

「鹿沼の彫刻屋台は、『動く陽明門』と呼ばれるだけあって美しい」と目を細める澤田さん。これからも、「日本画家・龍慶(画号)」として絵画や彫刻屋台、寺社の彩色を手掛けていきたいと、熱く語っていました。

◆ 彫刻屋台の彩色師

☆ 鹿沼市